

クロソイ種苗供給（水産基盤整備事業）

山田 嘉暢

目 的

大戸瀬漁協が多機能静穏域で実施するクロソイ養殖試験用の種苗3万尾を供給する。

材 料 と 方 法

1) 親 魚 養 成

種苗生産に供試したクロソイ親魚（全長38.4～52.4cm）は、当所前の生簀（2.0×5.0×4.0m）で、イカナゴ・スルメイカなどを給餌して周年飼育している個体を用いた。

平成13年4月11日に成熟して腹部が張った雌の個体を26尾、4月24日に9尾を生簀から取り揚げ、1m³パンライト水槽に1～2尾、合計35尾を収容した。

水槽側面を黒色シートで覆い、上部は遮光シートを掛けて親魚への刺激を極力減らすようにした。注水はろ過海水を約6ℓ/分の量で掛け流し、収容以降は無給餌とした。

2) 産 仔 魚 の 収 容

平成13年5月9日及び13日に産仔された仔魚を用いて種苗量産試験を開始した。飼育水は水量に応じて紫外線殺菌海水（使用可能量5m³/h）及びオゾン殺菌海水（使用可能量10m³/h）とし、飼育水は約2週間かけて13℃台から徐々に加温し17℃台とした。

飼育水槽は10m³FRP円型水槽1面に15万尾の仔魚を収容して飼育試験を開始した。試験開始時の仔魚の平均全長は6.1～6.5mmであった。

3) 餌 料 の 栄 養 強 化 と 給 餌

生物餌料の栄養強化方法を表1、餌料の給餌期間について表2に示した。

ワムシ及びアルテミア・ノープリウスは培養槽から抜き取り、栄養強化する作業は、ワムシが午前9時、アルテミア・ノープリウスは午後3時30分頃に行った。

ワムシはアクアランで栄養強化（朝給餌分：24時間栄養強化、夕方給餌分：7時間栄養強化）したものを給餌した。アルテミア・ノープリウスは乾燥卵を24℃の80%海水でふ化させ、48時間後に抜き取ったものをパウッシュAと脂溶性ビタミンAD3Eで栄養強化（朝給餌分：17時間栄養強化、夕方給餌分：

表1 生物餌料の栄養強化方法

区 分	ワムシ	アルテミア・ノープリウス
強化水温（℃）	20	20
強化時の密度（個体/ml）	60～70	40～70
強化時間（hr）	7（夕）及び24（朝）	17（朝）及び24（朝）
アクアラン（g/m ³ ）	200～300	
パウッシュA（ml/m ³ ）		100～200
脂溶性ビタミン（ml/m ³ ）		60

表2 餌料の給餌期間

餌料種類	飼育期間											
	0日	10日	20日	30日	40日	50日	60日	70日	80日	90日	100日	110日
ワムシ (L・S混合)		←→										
アルテミア・ ノープリウス			←									
配合飼料												

24時間栄養強化)したものを給餌した。

配合飼料はK社製の粒径400~1,000 (μm) を用いて自動給餌器と手撒きによる給餌を併用した。

ワムシは飼育2日から10日まで、アルテミア・ノープリウスは5日から60日まで、配合飼料は15日から試験終了時まで給餌した。

4) 飼育管理

飼育水には42日目まで濃縮淡水クロレラを50~100万細胞/mlの濃度になるように毎朝添加した。

また飼育開始から5日目以降はサイフォン方式による底掃除を行った。飼育40日目以降は成長にともない、随時ナイロン製モジ網(網目4.7、6.0、6.5mm)を用いて選別を行い飼育魚のサイズをそろえながら共食いが極力おこらないようにした。

結 果

82日間の飼育を行い、7月30日に取り揚げした平均全長45.4mm、平均体重1.34gの種苗21,200尾と平均全長37.5mm、平均体重0.75gの種苗10,000尾の計31,300尾を大戸瀬漁協に配付した。